



江戸時代屈指の和算家 磯村 吉徳 (?~1710)

遠く江戸時代から現在に至るまで、安達太良山麓より約18キロにわたり豊富な浄水を提供している用水、「二合田用水」を設計測量したのが、和算家であった磯村吉徳でした。

『世臣伝』によると、磯村は尾張国(愛知県)に生まれたといわれ、江戸の和算家高原吉種に学び、肥前国(佐賀県)鍋島孫太夫に仕えていました。二本松に来たのは承応元年(1652年)で、藩主丹羽光重公に召し抱えられたのは万治元年(1658年)です。

光重公が二本松藩主として着任後、すぐに城内・城下の大整備を断行していく中で、二本松城防備という軍事的条件で欠けていたのが用水でした。しかし、幕府は城郭の新規建築や修築といった工事に対して、厳しく規制していました。

そのため、本工事は幕府に無届で着手されたと伝えられています。結果的には、城防備のほか、灌漑用水による米の増産、衛生・防火など、多くの利点を生み出すことができたのです。

幕府に対して内密に進める工事のため、その測量、作業はほとんどが夜間に行われたとも伝えられています。また、工事着手と完成の年代も記録がないため定かではありません。

『二本松城沿革誌』は、当時の様子を「遠きは道に迷いし者の搜索のためとて、数人の提灯者を山野に放ちて奔走せしめ、近くは線香に点火せしめて、それを目標に測量せり」と記述しています。

磯村には、家臣としての藩への功績のほか、和算学者としても優れたものがありました。

磯村がまとめた全5巻からなる『算法闕疑抄』は、江戸時代の和算書のベストセラーの一つになっています。この著書の特徴は、それまでの和算の内容を全てまとめ、しかも、従来と比べて非常に詳細に記述した点にあります。本書は当時の和算の総決算書であり、磯村の数学者としての力量を示し、磯村流和算を不動なものとしたのです。

宝永7年(1710年)7月24日、磯村は亡くなりました。法号は「慶誉向善」、市内根崎の善性寺に眠っています。



二合田用水



善性寺の磯村吉徳墓所



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

(切り離してご使用ください)

第67回二本松の菊人形 ~徳川家康~

期 間 10/10(火)~11/19(日)

9:00~16:00

※期間中は無休です。

会 場 福島県立霞ヶ城公園(国指定史跡二本松城跡)



《二本松物産展も開催♪ ~にほんまつ城報館2F~》

期 間 10/7(土)~11/19(日) 9:00~16:30



菊人形会場では物産展で使える割引券を配付!
割引券で10% OFF♪



※割引券は数量に限りがあります。

開催中

にほんまつ城報館1F
二本松歴史館[第2展示室]

朝河貫一博士生誕150年記念企画展

あさかわまさずみ かんいち おやこ

朝河正澄・貫一父子物語

期間等 ~11/19(日)

※菊人形期間中は無休です。

9:00~17:00

(最終入館16:30)

入場料 無料

※常設展は有料(大人200円、高校生以下100円)です。

